

中学校 音楽 部会

部会長 川崎町立鷹峰中学校 校長 河野 康世
実践者 大任町立大任中学校 教諭 田中 美穂

1 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育む音楽科学習指導の工夫」
～主体的な学びにつながる交流活動を通して～

2 主題設定の理由

- 音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきた。
- 一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである。
- 今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要であるため、田川郡音楽部会として本主題を設定した。

3 主題の意味

- 音楽科の思考力・判断力・表現力とは、音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする力である。(2, 3年生は、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。)
- 音楽科の主体的な学びとは、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養うことである。(2, 3年生は、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養うことである。)
- 音楽科の交流活動とは、音楽科学習指導要領(H20)に示されている[共通事項]を音楽的根拠として、自分の考えを持ち、それを仲間と交流しあい、まとめていく活動を行い、同じ目標の達成に向け取り組んでいくことである。

4 研究の目標

本研究の目的は、音楽表現をより豊かにするために、どのようにしたら思考力・判断力・表現力が高まるのかを明らかにすることである。そのために交流活動を通して

主体的な学びにつながる方策を見いだすことをねらっていく。

5 研究仮説

表現領域において、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受容させるための適切な支援を行ったり、グループや全体での交流を通して、自分の考えを伝えたり、自分の考えと友だちの考えを比べさせ違った考えに触れたりする活動を行えば、生徒は自分の考えをさらに進化させ思考、判断し、思いを音楽的根拠に基づいて表現できる力が高まるだろう。また、自分たちで考え、工夫し、表現をつくりあげていく経験を重ねることが、自分たちの力で更にもっと豊かな表現をしていきたいという主体的な学びにつながるであろう。

6 研究の計画（本年度の授業研究の計画）

- (1) 題材名 「聴き手に思いが伝わるように表現を工夫して合唱をしよう」
 題材 混声三部合唱 「COSMOS」

(2) 題材の目標及び指導計画

- ①パートや全体での練習や音楽表現を工夫して歌う活動に意欲的に取り組む。
 (音楽への関心・意欲・態度)
- ②歌詞や旋律からパートの役割を理解し、曲にふさわしい表現を工夫する。
 (音楽表現の創意工夫)
- ③パートの役割を理解し、正しい音程とリズムで表現を工夫しながら歌う。
 (音楽表現の技能)

学習指導計画（総時数 8 時間）

歌	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法	時
一 次	1 曲から受ける印象を出し合い、歌詞に込められた思いを考える。 2 パート練習をする。 ・正しいリズム ・正しい音程	○ 楽譜を見ながら範唱CDを聴かせる。 ○ 作者がこの曲を作った時のエピソードを伝え、歌詞に込められた思いを考えさせる。 ○ パートリーダーを中心に音程やリズムに注意して音取りをさせる。 ○ 範唱CDやピアノを使って練習させる。	(工) 歌詞の内容を理解し、歌詞が訴えているメッセージを自分なりに理解している。〈学習プリント〉 (関) パート練習に積極的に取り組んでいる。 〈様相観察〉 (技) 自分のパートを正しい音程やリズムで歌うことができる。 〈様相観察〉	2 時 間
二 次	3 表現の工夫を考える。	○ 曲を20小節まで・33小節まで・Ahの部分・後半	(工) パートの役割を理解し強弱や歌い方を工夫し	4 時

	(1)個人 (2)パート ・歌詞や曲想から工夫 ・パートの役割を意識した工夫（本時）	の部分の4箇所区切り考えさせる。 ○ 具体的な言葉が思い浮かばない時は、音楽ワードカードを参考にさせる。	て歌詞や曲想にあった表現を考えることができる。 ＜学習プリント＞ (関) 音楽表現を工夫して歌う学習に、主体的に取り組もうとしている。 ＜様相観察＞	間 3/4 本時
三次	4 合唱を完成させる。	○考えた表現方法を再確認させて合唱させる。 ○自分たちの歌を録音し、評価をする。	(関) 合唱を仕上げる学習に主体的に取り組もうとしている。＜様相観察＞ (工) 自分たちの合唱を聴いて、さらに良くなるための考えを持っている。 ＜発言・学習プリント＞	1 時間
	5. 歌のテストをする。		(技) 工夫した音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 ＜実技テスト＞	1 時間

7 指導の実際

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、、パート練習を行い 自分のパートの音はある程度取れている。曲や歌詞から受けるイメージを出し合い、聴く人にどのような気 持ちやイメージを伝えようと思うのかまとめる活動を行った。また表現の工夫を考える活動においては、歌詞や曲想から受けるイメージを表現するための工夫について個人で考えた後、各パートで交流する活動を行った。

本時は、聴き手に思いが伝わるような合唱を目指し、パートの役割を考えて強弱や歌い方などの表現を工夫しながら合唱することをねらいとしている。

そのためにまず、本時のめあてを確認する。ここでは、現時点での合唱が聴き手に思いが伝わるような合唱になっているのか自分たちの課題について確認させ、本時で行う「Ah～」の部分だけでも表現の工夫によっては、聴き手に気持ちが伝わることを伝え学習の動機付けを図る。

次に、パートの役割を考え強弱や歌い方の工夫を考える活動を行う。ここでは、まず個人で考えを学習プリントにまとめさせたあと、パートで交流し表現をまとめる。その際、他のパートのメロディと見比べさせて、パートの役割を考えさせる。また、歌い方の工夫を考える際のヒントとして、「Ah～」の直前のメロディ（光の声

が・・・)との相違点について気づかせる。具体的にどのような記号や言葉を用いて表現の工夫を学習プリントに書けばよいのか思いつかない場合は、音楽ワードカードの中の言葉を使っても良い事を伝え、個人の考えは鉛筆で、パートでまとめた考えはペンで書かせる。各パートで考えた工夫を後で全員が把握できるように、それぞれの拡大楽譜に記入させておく。さらに、考えた表現の工夫をしながらパートで練習する。ここでは、伴奏用のCDを使いながら練習させ、場合によっては工夫の変更をしてもよいこととする。次に、合唱をする。ここでは、自分たちの考えた工夫を生かしながら全体の響きも意識して歌わせる。そして、成果を確認するために録音をする。最後に、録音したものを聴き合唱がどのように変わったのか感想を書く。ここでは、強弱や歌い方を工夫して歌うことで合唱全体がより豊かになることに気づかせ、今後の合唱活動への意欲の高まりにつなげたい。

(2) 本時の主眼

聴き手に思いが伝わるような合唱を目指し、伝えたい気持ちやパートの役割を考えながら歌うことを通して、強弱や歌い方などの表現を工夫することができる。

(3) 準備

教師：①楽譜 ②練習用CD ③CDデッキ ④拡大楽譜 ⑤学習プリント
⑥振り返りシート ⑦タブレット

生徒：⑧楽譜

(4) 展開

	学習活動・内容	教師の支援・手立て・評価	形態	配時
導入	<p>1 自分たちの合唱の課題について再確認し、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声のバランス ・声の出し方 ・強弱があまり感じられない ・音符の長さ分、声を伸ばせていない 	<p>○ 前回出し合った課題を確認させ、作者の思いや自分たちのイメージ(思いの強さや優しさ)が伝わるような歌になっているか問い、めあてにつなげる。</p>	全体	5
	<p>「Ah～」部分だけで聴き手に思いが伝わるように、パートの役割を考えながら、強弱や歌い方を工夫して歌おう。</p>			
展開	<p>2 パートの役割を考え、強弱や歌い方の工夫を考える。</p> <p>(1)個人で考える。 (2)各パートで交流しまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱記号や用語 ・歌い方(優しく、なめらか 	<p>○ 他のパートのメロディと見比べさせて、パートの役割に気づかせる。</p> <p>○ 歌い方の工夫を考える際のヒントとして、直前に出てくる似たメロディ(光の声が～)と見比べ異なる点に気づかせる。</p> <p>○ 歌い方のイメージができて、それをどう</p>	個別 パート	35

	に、つなげて、力強く等)	<p>という言葉で表せばよいのか、思いつかない場合は、「音楽ワードカード」を参考にしても良い事を伝える。</p> <p>○ 個人で考えた工夫を、学習プリントの楽譜に鉛筆で記入させる。パートでまとめた工夫はペンで記入させる。</p> <p>○ 各パートのリーダーにそれぞれ決めた工夫を拡大楽譜に書くように指示する。</p> <p>◆ パートの役割を理解し、強弱などの表現を工夫している。 (工) <学習プリント></p>		
	5 パート練習をする。 ・正しい音程、リズム ・考えた強弱や歌い方の工夫	○ 各パートを回りながら、必要に応じてアドバイスをする。	パート	
	6 合唱する ・パートの役割を考えた歌い方 ・強弱や工夫した歌い方	<p>○ 各パートの拡大楽譜を前に掲示する。</p> <p>○ 自分たちで考えた工夫を意識して歌わせる。</p> <p>○ 今日の成果を確認するために録音する。</p>	全体	
まとめ	7 録音したものを聴き、合唱がどのように変わったか感想を書く。 8 振り返りシートに記入する。	○ 録音したものを聴き、各パートの工夫を感じとらせ、パートの役割を考え、表現を工夫して歌うと合唱がより豊かになることに気づかせる。	全体	10

8 研究のまとめ

本題材において、思考力・判断力・表現力を育むために次のような交流活動の手立てをとった。

- 歌詞や曲から受ける印象を発表し合い、歌詞に込められた作者の思いについて考えさせる。
- 現時点での合唱が聴き手に思いが伝わるような合唱になっているのか自分たちの課題について確認させる。
- パートリーダーを中心にリーダーの指示の元、パート練習を繰り返し行わせる。
- 個人で考えた工夫を学習プリントに書かせた後、各パートで交流し工夫をまとめさせる。
- 具体的にどのような記号や用語を用いればよいのか思いつかない生徒には、音楽ワードカードを参考にさせる。
- グループや全体での交流を行い、友だちの考えと自分の考えを比べさせたり、

新たな考えを知ることで、自分の考えを進化させる。

- 録音を行い、練習当初に録音していた自分たちの合唱と聴き比べさせ、表現を工夫して歌うことで合唱がより豊かになっていくことに気づかせる。
- 実技テストを行い、表現を工夫して歌うための技能が身についているか評価し、自己評価も行う。

9 成果と今後の課題

<成果>

- 話し合い活動を行う前に、個々の考えをまとめる時間をとったことでグループでの話し合い活動が円滑に行われ、さまざまな意見が出された。
- 音楽に関する用語や記号などについて理解出来ていない生徒への手立てとして「音楽ワードカード」を用いたことで、個々のイメージを出しやすくし表現の工夫を考えることができる生徒が増え、効果的であったと思われる。また、用語や記号を使った仲間の意見を聞くことで、自分の「言葉での表現」が「用語や記号ではどう表せるのか」と考えるきっかけとなり、記号の理解と表現の幅の広がりにつながった。
- パートリーダーを中心に自分たちで何度も話し合い、表現の工夫を考え、合唱を創りあげていく活動を通して、より一層表現活動への意欲が高まり、主体的に活動する場面が多く見られるようになった。
- 自分たちで考え、一つのを創りあげていく経験を通して、達成感、満足感を得た生徒が多く、日常生活でも自分たちで工夫してみようとする意欲が高まった。

<課題>

- 話し合い活動に時間がかかり実際に歌う活動の時間が少ないことがあった。話し合い活動が主にならないよう、学習プリントや取組の方法をさらに工夫していく必要がある。
- 「音楽ワードカード」「音楽の要素表」の拡大印刷を掲示しておくこと、今後の音楽活動においても、生徒への意識付け（さらに豊かな表現をしようという意欲）や要素などを学習し理解させることに関しても役に立つと思われる。

◎参考文献

- ・ 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 音楽編」 平成20年 教育芸術社
- ・ 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 音楽編」 平成29年6月 文部科学省